

Love for Our Hometown with a Heart of Compassion

思いやりの心で、  
ふるさとと愛。



The 38th  
**JAPAN TENT**

世界留学生交流・いしかわ2025

報告書

JAPAN TENT開催委員会

# 【総合テーマ】 思いやりの心で、ふるさと愛。

Love for Our Hometown with a Heart of Compassion

## 開催趣旨

---

「JAPAN TENT世界留学生交流・いしかわ2025」は世界の国と地域から国際社会の未来を担う留学生約130人を石川県に招き、国際交流を図るとともに、若者たちの夢と希望、そして日本の社会・文化・生活などについて意見を交換し合い、言葉や文化の壁を超えて友情を育むことを目的としています。

1988年の第1回以来、169の国と地域から参加した留学生は1万人を超えます。すでに留学を終えて帰国した方々は、日本と母国をつなぐ架け橋として世界各地で活躍しており、「地方からの国際化」をけん引してきたジャパンテントの実りは、かけがえのない石川県の財産となっています。

今年は「思いやりの心で、ふるさと愛」を総合テーマに、8月21日から県内各地でさまざまな学びと交流のプログラムを行い、石川が受け継いできた歴史や豊かな伝統文化に触れて頂きました。

また、昨年、地震と豪雨の大きな災害に見舞われた奥能登地区では、「能登半島地震復興旧プログラム」として、希望する学生が被災地支援のボランティア活動に参加しました。この経験を通して、国を超え、言葉を超えた「思いやりの心」を学んでいただけたことと思います。

留学生にとって、家族の一員として日常生活を共にするホームステイは、日本人の暮らしそのものを深く理解する機会になります。一方、県民やボランティア学生の皆さんには、自らのふるさとを知る大切さを学ぶとともに、民族や言語を超えた心と心の交流の素晴らしさを体験していただきました。

このジャパンテントの活動が、若者たちの未来への夢を育むとともに、我が国の留学生受け入れ体制を支え、豊かな国際交流、実りある国際貢献、そして世界の平和へと導くことを確信しています。

## JAPAN TENT アピール2025

---

この夏、石川に集った私たちは、大切なことを胸に刻みました。それは、互いの違いを認め、尊重する「思いやりの心」です。

ホストファミリーや学生ボランティアの皆さんとともに石川の伝統文化や歴史、生活習慣を体験し、自分たちの生まれ育った地域を大事に思う「ふるさと愛」に触れました。

そして、私たち自身のふるさとについても語り合い、差異を理解し、相手を敬うことから対話が始まると気付いたのです。

県民の皆さんは私たちを家族同様に温かく迎えてくれ、石川はかけがえのない第二のふるさととなりました。能登半島地震と豪雨災害からの一日も早い復旧復興を願い、ボランティア活動にも取り組みました。

私たちはこれからも住民の方々に寄り添い、ふるさとを愛する気持ちをもって、世界各地から能登を応援していきます。世界は今、激動の時代を迎え、さまざまな課題を抱えています。

だからこそ、次代を担う私たちは、JAPAN TENTで得た貴重な学びと多くの仲間との絆を大切にしながら、確かな未来を拓いていくことをここに誓います。

ありがとう、JAPAN TENT!

# 謝 辞



JAPAN TENT開催委員会総裁

**馳 浩**

石川県知事

世界各地からお越しの留学生の皆様が、県民の皆様と交流を深めながら、石川の文化を体験する「第38回 JAPAN TENT-世界留学生交流・いしかわ2025」を本年度も無事に終えることができました。

1988(昭和63)年に開始して以来、今回で38回目を迎えたJAPAN TENTは、「思いやりの心で、ふるさと愛」をテーマに掲げ、これまでに169の国と地域から延べ1万人を超える留学生に参加いただき、国際交流の輪を広げてまいりました。本大会を通じて築かれた友好の絆は、国境を越えて広がり、世界と石川を結ぶ大きな力となっています。

本年度は、昨年発生した能登半島地震及び奥能登豪雨からの復旧・復興を支援する特別プログラムとして、奥能登4市町でボランティア活動を実施し、被災地の方々と心を通わせる貴重な機会となりました。

また、能登の人々の声をもとにした台本を朗読し、その物語を世界に発信する取り組みや、各市町での伝統工芸体験等を通じて、石川の質の高い文化を体感されたほか、復興への思いも深く感じていただけたことと思います。

こうした活動は、留学生の皆様にとって石川を「第2のふるさと」として心に刻む契機となり、今後も母国と石川を結ぶ友好の架け橋となっていただくことを期待しております。

最後に、本大会の開催にあたり、多大なご支援・ご協力を賜りました県民の皆様、関係各位、そして留学生を温かく迎えてくださったホストファミリーやボランティアの皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも、本県の国際化と復興に向けた歩みにご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



JAPAN TENT開催委員会会長

**小中 寿一郎**

北國新聞社社長

「第38回 JAPAN TENT-世界留学生交流2025-」は、51の国と地域から129人の留学生を迎え、無事に全日程を終えることができました。温かく留学生を迎えてくださったホストファミリーの皆さまをはじめ、自治体、経済団体、企業、関係団体の皆さまから賜りました多大なるご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

地方からの国際化と市民交流を目的とするJAPAN TENTは、1988(昭和63)年に第1回を開催して以来、延べ1万人を超える留学生にご参加いただいております。ホームステイや文化体験プログラムを通じて育まれた友情の輪は世界へと広がり、今日では日本を代表する国際交流イベントの一つとして定着しています。

2024年元日に石川県を襲った能登半島地震、さらに同年9月の奥能登豪雨により、今大会では被災地である奥能登地区を除く15市町においてホームステイを実施しました。一方、ホームステイの実施がかなわなかった奥能登地域には、金沢でホームステイ中の留学生やホストファミリー、学生ボランティアが各地を訪問し、復旧・復興支援プログラムへの参加やボランティア活動を通じて、被災地の皆さまと交流を深めました。こうした取り組みを通じて、6年ぶりに県内すべてとなる19市町で国際交流を実施することができ、能登復興への思いを分かち合う意義深い機会となりました。

多くの皆さまのお力添えにより積み重ねてきた交流の成果は、国際情勢が大きく変化する中であっても、変わることはないJAPAN TENTへの信頼として、確かに受け継がれているものと感じております。

今後とも本事業の趣旨にご理解を賜り、引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 日 程

2025年 8月21日(木)～24日(日)〈4日間〉

8/21(木)	9:00	留学生が全国から金沢入り～受付
	10:00	オリエンテーション
	10:30	<b>第38回大会特別プログラム</b>
	13:00	<b>歓迎式典</b>
	13:30	留学生は県内15市町へ移動。各市町の歓迎式、各ホストファミリー宅へ
8/22(金)		各市町プログラムもしくはフリータイム
	13:30	<b>金沢プログラム</b> <b>能登半島地震復興復旧支援プログラム①</b>
8/23(土)		各市町プログラムもしくはフリータイム
	13:30	<b>能登半島地震復興復旧支援プログラム②</b> 輪島市／珠洲市／能登町／穴水町
8/24(日)	10:00	金沢東急ホテル 集合
	10:30	<b>JAPAN TENT ラウンドテーブル</b>
	12:00	ランチョンパーティ
	13:30	<b>さよならセレモニー</b>
	14:00	留学生はそれぞれの帰路に

## INDEX

開催趣旨

JAPAN TENT アピール2025 …………… 1

謝 辞 …………… 2

日 程 …………… 3

歓迎式典 …………… 4

金沢プログラム …………… 7

能登半島地震  
復興復旧支援プログラム① …………… 8

市町プログラム …………… 9

能登半島地震  
復興復旧支援プログラム② …………… 13

JAPAN TENT大使任命 …………… 14

JAPAN TENTラウンドテーブル …………… 15

さよならセレモニー …………… 20

参加留学生の出身地・大学等 …………… 21

留学生の声 …………… 22

ホストファミリーの声 …………… 23

学生ボランティア …………… 24

広報・大会経緯 …………… 25

特集記事 …………… 26

JAPAN TENTメモリアル …………… 27

開催委員会・実行委員会 …………… 30

# | 歓迎式典 8/21 木 会場/北國新聞赤羽ホール

## 開会あいさつ

馳 浩 JAPAN TENT開催委員会総裁・石川県知事  
 小中 寿一郎 JAPAN TENT開催委員会会長・北國新聞社社長

## 歓迎あいさつ

村山 卓 JAPAN TENT開催委員会副総裁・石川県市長会長・金沢市長

## 来賓紹介

片江 学巳 駐ルーマニア日本国特命全権大使  
 市川 真之 外務省大臣官房人物交流室主査  
 宮川 卓也 文部科学省高等教育局参事官(国際担当) 付留学生交流室室長補佐  
 安居 知世 JAPAN TENT開催委員会副総裁・石川県議会議長  
 酒井 雅洋 JAPAN TENT開催委員会副会長・石川県教育長  
 野口 弘 JAPAN TENT開催委員会副会長・金沢市教育長  
 戒田 由香里 JAPAN TENT実行委員会実行委員長・石川県文化観光スポーツ部長

## 内閣総理大臣ビデオメッセージ

ホストファミリー代表あいさつ …… 寺本 直子(金沢市)  
 留学生代表あいさつ …… ド ティ クイン リエン(ベトナム・事業創造大学院大学)  
 留学生代表からホストファミリー代表へ花束贈呈  
 歓迎コーラス …… もりのみやこ少年少女合唱団



## 総理大臣お祝いメッセージ

皆様、こんにちは。内閣総理大臣の石破茂です。  
 ここ石川の地で、今年もジャパンテントが開催されますことを心よりお慶び申し上げます。1988年に第1回大会が開催され、今年で38回目を迎えることとなり、本日は、世界各国から約120人の留学生がお集まりになると聞いております。  
 これまでに、ジャパンテントに参加された留学生は169の国と地域から延べ1万人に上ります。この石川の地で芽生えた友情の輪は、世界へと広がっていると確信しております。  
 今大会では、19の県内すべての市町で活動が行われます。皆さんご存知の通り、石川県では昨年1月1日に能登半島地震に見舞われ、9月には豪雨もあり、県民の皆さんは大変な御苦労をされ、今も大勢の方々が大変な思いをされています。  
 特に、能登半島地震の影響が今なお残る輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の奥能登地区では、いまだホームステイの受け入れは難しい状況がありますが、一部の留学生の方々がボランティア活動を行いながら、地域の皆さんと交流を深めるプログラムに参加されると伺っております。皆さん方の取り組みが能登の復興を支える助けとなることを願っています。  
 政府においては、外国人留学生の受け入れやキャリア支援な

どの取り組みを進め、地域における多文化共生の推進を図っていると伺っています。日本で学ぶ留学生の皆さんが、より実りある経験を積み、将来、母国と日本の架け橋として活躍されることを期待しています。



学生ボランティアの皆さんにおかれましても、留学生とのふれあいを通じてもっと世界を知り、将来、世界へと羽ばたく第一歩としていただければ幸いです。  
 留学生を温かく迎え入れてくださっているホストファミリーの皆さんをはじめ、毎年、国際交流にご尽力いただいているすべての方々に感謝申し上げ、私のメッセージといたします。

令和7年8月21日  
 内閣総理大臣 石破 茂

## 特別プログラム

### 世界からの留学生へ 平和のビデオメッセージ

#### コンスタンティン・キリヤック氏

親愛なる日本の皆様、金沢の皆様、そしてこれまで日本に留学してきた世界169カ国・地域の皆様、ここルーマニアのシビウから心を含めてご挨拶申し上げます。こうして皆様と対話できることを、大変嬉しく思います。「JAPAN TENT」の38年にわたる熱意ある取り組みに、心から敬意を表します。

「ふるさと愛」は、美しい言葉です。自分が生きている土地を愛し、その土地のエネルギーを活かすことで、人に地球上で唯一無二の独自性を与えてくれます。ふるさは、あなたにとって世界の中心であり、そこから輪が広がり一地球、そして宇宙へとつながっていくのです。

「JAPAN TENT」とは何でしょうか。私は、人の魂と経験を結びつけることによって人生を豊かにし、神や宇宙とのつながりを感じさせる機会ではないかと思っています。今日は33年前に国際演劇祭が生まれたここシビウの街から、皆さんへの愛を伝えたいと思います。

「シビウ国際演劇祭」には、第1回から日本の皆さんが参加してくださいました。これまで135の日本の劇団が出演し、日本人が参加しなかった年は一度もありません。この文化的な絆は、やがて国家間の信頼へと育ち、2023年には日本とルーマニア両政府が戦略的パートナーシップを結ぶに至りました。すべては、文化、教育、芸術の交流から始まったのです。

私は長年、シビウに世界中の文化の多様性や豊かさを感じ取ることができ交流事業を招聘してきました。その結果、シビウは文化、



教育、学術分野において、ヨーロッパ全土を照らす中心地となりました。日本からも歌舞伎、狂言、能、文楽、バレエ、現代舞踊、演劇、オペラ、音楽などの舞台芸術を招きました。日本の大学とも連携し、2004年以降は毎年、25人の日本人の若者が演劇祭のボランティアとしてシビウを訪れ、ルーマニア人家庭にホームステイしています。そこで生まれる友情は、何ものにも代えがたい宝です。

芸術の力は、千年近い歴史を持つこの街の城壁を越え、人々の心を開いてきました。毎年、数万人の応募の中から選ばれた若者たちが演劇祭を支えています。こうした日本との絆、とりわけ金沢との結びつきが近年いっそう深まっていることを、私は心から嬉しく思っています。この友情は、新たなエネルギーと創造力を生み出します。太陽が無償で光と熱を与えるように、人もまた無償で与えることができる時、街はより美しく、友好的になるのです。

「シビウ・ウォーク・オブ・フェイム」には、文化芸術に貢献した77人の名が刻まれています。中村勘三郎さん、串田和美さん、野田秀樹さん、笈田ヨシさん、佐々木蔵之介さん——日本の偉大な芸術家たちは、国境を越えた創造の友情を私たちに示してくれました。共同制作した作品はヨーロッパでも日本でも高く評価され、文化が国や地域を代表し、価値観を共有する力を持つことを証明しています。

人生は短い。だからこそ、私たちは迅速に考え、行動し、多くの出会いと友情を築かなければなりません。自らの文化とふるさを大切に、街と対話し、その価値を高め、平和へとつながる未来を創造してほしい。私は人類の未来と想像力の力を信じています。



## 留学生代表挨拶

ド ティ クイン リエン(ベトナム・事業創造大学院大学)

皆様、こんにちは。ベトナムから参りましたリエンと申します。

本日、日本各地で勉強している私たち留学生をお招きいただき、誠にありがとうございます。留学生代表として御挨拶させていただきます。

私は現在、事業創造大学院大学の2年生で、日本に来て間もなく2年になります。日本のことはまだ全てを理解しているわけではありませんが、特に私たち若い世代にとっては、日本の伝統文化や工芸に深く触れるチャンスが限られていると感じています。ですので、今回のJAPAN TENTに参加させていただいたことは非常にうれしいです。

アジア、ヨーロッパ、アフリカなど世界中から日本に来ている私たち留学生にとっては、専門的な知識を学ぶことはもちろん、日本の文化や日常生活、そして母国では、なかなか経験できないことを体験することも留学生活の大きな目的の一つです。

今回のプログラムは、日本の伝統文化に触れることができるだけでなく、能登半島地震のボランティア活動にも参加させていただけると聞いております。日本人の皆様やほかの国の留学生と交流を深めて、お互いの理解とつながりを深める大切な機会になると思います。

石川県は、海と山に囲まれた豊かな自然環境に恵まれ、伝統と現代が調和した、とても魅力的な地域です。これから私たちはホストファミリーと留学生の友達と一緒に様々なところを訪れ、その土地ならではの魅力や文化、地元の習慣など、もっと分かるようになると思います。そして、

世界中から集まった私たちは、日本人の御家庭と一緒に過ごしながら、地域の美しい景色を見たり、地元の食材を使ったおいしい料理を味わったりすることは、きっと忘れられないすばらしい経験になると思います。

私の母国、ベトナムも日本と同じアジアにあり、長い歴史と豊かな伝統文化を持つ国の一つです。しかし、急速な近代化の中で、若い世代が伝統と文化をどのように守り、受け継いでいくかということが大きな課題になっています。そのような中で、日本の伝統を大切にしている地域と触れ合う今回の体験は、私にとって貴重な学びになり、ぜひ母国に持ち帰り、多くの若い人たちに伝えたいと思っています。

最後に、このようなプログラムを通じて、日本文化を学び、お互いの交流が生まれることで、日本と私たちの各国の友好関係が一層深まり、続いていくことを願っています。

JAPAN TENT関係者の皆様、また、ホストファミリーの皆様にごこのような貴重な機会をつくってくださったことに、改めてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

これから4日間、短いですが、どうぞよろしくお願いいたします。



## ホストファミリー代表挨拶

寺本 直子(金沢市)

皆さん、こんにちは。ようこそ石川県、そして金沢へ。

私は寺本直子と申します。ホストファミリーを代表して、皆さんを歓迎いたします。私たち家族は、こうして皆さんとお会いできる日をとても楽しみにしていました。皆さんが日本で多くのことを学び、体験していかれる中で、このJAPAN TENTに参加し、石川県まで来ていただいたことをとてもうれしく思います。

このJAPAN TENTは、ホストファミリーと一緒に日本の持つ伝統と文化を体験することができるすばらしいプログラムが準備されています。石川県は、古くは400年も前に始まった江戸時代のお茶、工芸、能楽などの文化が今も様々な場所で根づいています。ぜひまちのあちこちに散りばめられている歴史の足跡を感じてほしいと思います。



さて、昨年1月に石川県能登地方で大きな地震が発生し、大変な被害が出ました。山が崩れ、津波がまちを襲い、発生した火事で多くの人が亡くなりました。日本中、世界中から支援が集まり、今、能登の人々は少しずつですが前を向いて歩こうとされています。

今回、JAPAN TENTでも、復旧・復興ボランティアが計画されています。参加される皆さんの温かな気持ちを能登にたくさん届けてください。能登の豊かな自然と人の優しさに触れて、私たちの暮らしと災害について考えるきっかけになればと思います。

私は、皆さんにとってのJAPAN TENTでの一番の体験が、ホストファミリーと過ごす時間になればいいなと思っています。この4日間で皆さんの宝物になりますように、みんなで楽しみましょう。

最後に、JAPAN TENTの準備運営を行っていただいているスタッフの皆様にも感謝申し上げます。

## 金箔工芸体験

### 1万分の1ミリに感嘆

金沢の伝統工芸として全国に知られる金箔工芸体験が行われ、留学生にボランティア学生も加わって、加賀小紋の模様を表現する技法に取り組みました。

金箔は卓越した職人技により、1万分の1ミリの薄さにまで引き延ばされます。留学生たちは、配られた金箔を光にかざし、向こう側が透けて見える極限の薄さに歓声をあげていました。



## 能登朗読ワークショップ

### 被災者の思いに 寄り添う

能登半島地震で被災した人たちの生の声を基につくられた台本を朗読するワークショップが行われ、参加した留学生は台詞を通して被災者の思いに寄り添いました。

金沢大学の中野涼子教授らが、被災地で実際に聞き取った内容をまとめた台本には、被災者が味わった恐怖や苦しみ、悲しみ、無力感との葛藤や故郷への愛情が綴られ、留学生たちは朗読しながら能登の人々に心を寄せました。



# 市町プログラム 8/21<sub>木</sub> ▶ 8/23<sub>土</sub>

留学生受け入れ先の石川県内15市町では、各地の特色ある文化や自然、歴史に触れるプログラムが行われました。留学生は、貴重な文化体験を通じて、お互いの理解を深めました。

## 白山市

21日<sub>木</sub>

- オリエンテーション、歓迎セレモニー・対面式

22日<sub>金</sub>

- 白山ろく民俗資料館にて草木染め体験、館内見学
- 鶴来地区視察（白山比咩神社、獅子吼高原）
- ジャパントント交流パーティー

23日<sub>土</sub>

- フリータイム



## 小松市

21日<sub>木</sub>

- 歓迎セレモニー・対面式

22日<sub>金</sub>

- フリータイム
- 安宅和太鼓体験（シルクビート）
- 「安宅の関」こまつ勸進帳の里施設見学
- WORLD SUMMER FESTIVAL
- 音楽演奏鑑賞（フラダンス・フラメンコ・サンバ等）

23日<sub>土</sub>

- フリータイム



## 加賀市

21日<sub>木</sub>

- ウェルカムパーティー in 加賀

22日<sub>金</sub>

- 九谷焼絵付け体験（九谷満月）
- 館内見学（石川県九谷焼美術館）
- 館内見学、橋立地区見学（北前船の里資料館・橋立地区）

23日<sub>土</sub>

- フリータイム



## 野々市市

21日(木)

•対面式

22日(金)

•「そば打ち体験」  
(野々市市郷土資料館Nono)

23日(土)

•フリータイム



## 七尾市

21日(木)

•対面式・歓迎パーティ

22日(金)

•日本食、ところてんづくり体験  
•ブルーベリー摘み  
•水引工芸体験

23日(土)

•フリータイム



## 能美市

21日(木)

•市長表敬・ホストファミリーとの対面式

22日(金)

•フリータイム

23日(土)

•九谷焼絵付け体験・九谷陶片ハッピーズ体験  
•フリータイム  
•交流会・辰口まつり踊り練習、本番



## 羽咋市

21日(木)

•歓迎受入式

22日(金)

•そば打ち体験  
•お寺体験(永光寺)  
•和菓子作り体験

23日(土)

•フリータイム



# 市町プログラム 8/21<sub>木</sub> ▶ 8/23<sub>土</sub>

## かほく市

### 21日<sub>木</sub>

- 国際交流サロン  
(留学生・スタッフ自己紹介、名札づくり)
- 市の歴史説明+勾玉づくり体験  
(西田幾多郎記念哲学館4階研修室)
- 西田幾多郎記念哲学館 見学
- 対面式

### 22日<sub>金</sub>

- 弓道・雑巾がけ体験
- カジファクトリー企業訪問・見学
- 国際交流サロン(レクリエーション)

### 23日<sub>土</sub>

- フリータイム



## 津幡町

### 21日<sub>木</sub>

- 歓迎挨拶・対面式

### 22日<sub>金</sub>

- 組紐作り
- カジファクトリー企業訪問・見学

### 23日<sub>土</sub>

- フリータイム



## 内灘町

### 21日<sub>木</sub>

- ホストファミリー対面
- 副町長表敬訪問
- 歴史民俗資料館

### 22日<sub>金</sub>

- カジファクトリー企業訪問・見学
- フリータイム

### 23日<sub>土</sub>

- 内灘サンセットアワー
- フリータイム



## 志賀町

21日(木)

●対面式

22日(金)

●貝細工体験、遊覧船  
●フリータイム

23日(土)

●フリータイム



## 中能登町

21日(木)

●表敬訪問

22日(金)

●切り絵の体験教室(ラビア鹿島)

23日(土)

●フリータイム



## 宝達志水町

21日(木)

●対面式

22日(金)

●自然体験(ドライブ) 千里浜なぎさドライブウェイ  
●昼食会(クチノトマーケット)  
●勾玉作り体験(埋蔵文化財センター)  
●茶道体験  
●喜多家見学

23日(土)

●フリータイム



## 川北町

21日(木)

●対面式

22日(金)

●紙すき体験(加藤和紙)  
●和菓子作り体験、茶道体験  
●太鼓体験

23日(土)

●フリータイム



## 被災地で ボランティア活動

奥能登2市2町は、地震と豪雨による被害がもっとも大きかった地域です。日々、さまざまな形で入ってくるボランティアの方々に混じって留学生も支援活動に参加しました。

それぞれの市町の被害状況に合わせて地域の方々が支援プログラムをつくり、留学生に丁寧に説明する中で、参加者は被災者に寄り添い、懸命に作業に取り組みました。

### 輪島市

- ボランティア活動
- 被災地視察
- キリコ設営見学
- 地元住民との交流



### 穴水町

- 海洋プログラム運営補助、体験
- 家屋（仮設住宅含む）などの片付け、荷物搬出、搬入撤去など
- 被災地見学（陸上競技場、相撲場、野球場など）
- 穴水商店街、穴水駅前清掃活動



### 能登町

- 行念寺の片付け作業



### 珠洲市

- 市長あいさつ
- ピザ作り体験
- 仮設住宅窓ふき、草刈り
- 海岸清掃、草刈り
- 奥能登芸術祭作品会場の清掃、ワークショップ



## 若き民間大使として世界で活躍

参加留学生が母国に帰国した後も交流を続けるとともに、民間大使の役割を担うのがジャパンテント大使です。参加した留学生と世界規模でネットワークづくりを推進し、絆を深め、石川で学んだ思いやりの心で世界の人々に平和をもたらす活動をしていきます。



キム スジョン (韓国・一橋大学)

シヤノーヴィチ ヤン (ベラルーシ・東京学芸大学)

マリノ リューカ (ブラジル・東京学芸大学)

ンナシリ イメーン (モロッコ・東京外国語大学)

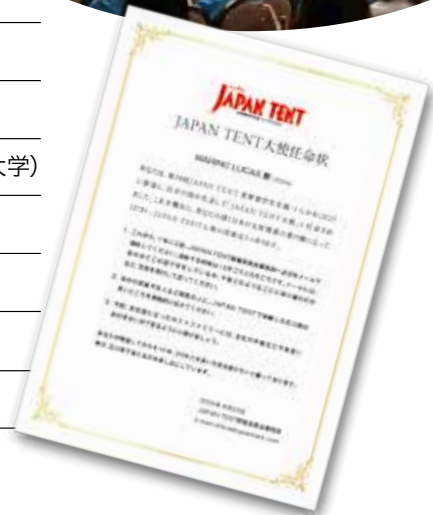
アブディジャ パーロフクバン (キルギス共和国・事業創造大学院大学)

サファン (トルコ・早稲田文理専門学校)

コッカ サムエラ (イタリア・福井大学)

フィオナ ンガゼ (ジンバブエ・国連大学)

リリヤン グチェン (ブータン・東京大学)



# “これからのJAPAN TENT ～自然災害を乗り越えて”

今回は、「自然災害を乗り越えて」ということで、昨年1月1日に大きな地震が能登でありました。能登ではその地震とともに、その後、水害もあって、まだまだ復興のために大変な努力が必要だということも実感できたと思います。パネリストとして、韓国からキム・スジョンさん、ベラルーシからシヤノーヴィチ・ヤンさん、それからブラジルからマリノ・リュウカさん、モロッコからンナシリ・イメーンさんをお招きしています。おそらく、皆さんの国にも様々な自然災害があると思いますので、そのご紹介も含め、さらに今回の経験、このプログラムに参加したことで、ぜひ皆さんと共有したいことを紹介していただきたいと思います。まず、キムさん、お願いします。

**キム・スジョン氏**◆今は28歳で、8年前に名古屋の大学に留学をしていました。そのときには日本文化が楽しかったくらいに感想しかなかったのですが、今は結婚をしていて、家族と楽しむ姿を目にしたり、幸せな夫婦の姿を直接見たことで、気持ちが動きました。子供を産むかどうかをすごく悩んでいたのですが、子供を産むことは単に私が諦めるということではなく、改めて社会的に得るものもあるということ強く実感しました。

また、被災地を訪問することで、日本の良いところだけではなく、支援が必要なおとこ、国際的に協力がが必要なおとこを見ることができて、私にとってすごく考えさせられる経験になりました。それがとても良かったと思います。

**大内浩氏**◆ありがとうございます。

これまでの留学経験を土台にしながら、改めていろいろなことを再認識された。特にお子さん、家族をどうするか。今回、災害の中で、家族の大切さとか、人とのつながりということがいかに大切かということ再認識するということは、皆さんはもちろん、能登の皆さんが再認識された大事な点かと思えます。それでは、次に、ベラルーシのシヤノーヴィチ・ヤンさんからお願いします。

**シヤノーヴィチ・ヤン氏**◆コンスタンティン・キリヤックさんからの平和のメッセージは、とても印象に残りました。今でも世界のあちこちで戦争が続いている中で、彼のメッセージはとても大切だと思います。

私たちはこの4日間、自分たちの国の代表として世界中の人と出会い、お話しすることができました。お互いのことを知るだけではなく、それぞれの国の文化や歴史を学べる、本当に素晴らしい機会でした。

私は、現地の人々やボランティアの方々と交流することができたことも、とてもうれしく思います。金箔体験、朗読ワークショップも、とても楽しい時間を過ごしました。

朗読ワークショップでは、地震の破壊的な影響について書かれた、とても生き生きとした感情的な文章を読んで、泣き出した人もいらっしゃいました。

次の日、私のグループは輪島でボランティア活動をしました。そこで、私たちは災害の状況を自分の目で見ることができました。現地の住民が、前向きに生活を続けている姿を見ることができて、とても嬉しかったです。地元の人々と一緒にキリコという巨大な山車を引いたことは、特に印象に残りました。

困難を乗り越えるために人々は集まって、共にその重荷を引っ張るのです。地元の人たちは今年、キリコの祭りを行うべきかどうか迷っていたらしいのです。災害で亡くなった人たちが本当に望んでいることが分からないからこそ、開催することにしたそうです。私は彼らの決断が正しいと思います。

もちろん、ホストファミリーへの感謝も忘れられません。私を温かく迎えてくださったコメタニさん、一生忘れません。一緒に夕方のひがし茶屋街を歩いたり、浅野川沿いを散歩したり、兼六園、武家屋敷、美術館を訪ねたり、楽しくおしゃべりしながら酒を飲んだり、さらにボルシチをごちそうにもなりました。しかも、私のために特別にベジタリアンのボルシチを作ってくれたのです。それから、私の一番好きなベラルーシ料理、ドラニキというジャガイモのパンケーキも一緒に作りました。

**大内氏**◆ありがとう。冒頭、彼から今、ベラルーシの周辺、特にそのすぐ南側にウクライナがありますので、大変な惨状で、僕らも毎日心を痛めていますけれども、残念ながら人間の歴史には互いに争った歴史というのは数え切れないほどたくさんあって、しかしながら、それを乗り越えて



コーディネーター  
**大内 浩**  
(芝浦工業大学名誉教授)

1947年生まれ。上智大学大学院卒。総合研究開発機構研究員、国際大学助教授、芝浦工業大学工学部建築工学科教授を歴任。専門は地域開発、国土政策。金沢のまちづくりに、アドバイザーとして長期にわたり参加してきた。金沢創造都市会議シニアフェロー、北國総合研究所客員研究員ほか。JAPAN TENTでは、参加留学生とのシンポジウムに出演し、コーディネーターを務めた。



特別ゲスト  
**木村 実**  
(東京海上日動火災顧問)

1989年 国土庁(現国土交通省)に入庁。復興庁参事官、国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長、国土政策局総合計画課長、大臣官房審議官(総合政策)、内閣官房内閣審議官、国土交通省国土政策局長などを歴任し、2023年に退官。2024年1月、東京海上日動火災保険株式会社の顧問に就任。

きました。いろいろな形で知恵を出し合い、そして乗り越えてきたというのが人間の歴史だと思うのです。

それでは次に、ブラジルから来てもらったマリノ・リュウカさん、お願いします。

**マリノ・リュウカ氏**◆ブラジルは幸いなことに、あまり自然災害が無いのですが、治安が悪くて困っています。私は、能登町の支援ボランティアに参加させていただいたのですが、自然災害があったとき、やはり日本国民には思いやりの心が備わっているのを、命さえあればみんなで協力し、助け合う。それは本当に素晴らしいことだと思いました。

ホストファミリーの話をさせていただきますと、もうこれ以上幸せな家庭はないだろうと思わせるほど、本当に温かく迎えてくださって、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

**大内氏**◆ありがとうございます。私も実は都市問題をやっているのですが、世界中の都市を訪れています。残念ながら、世界の中では本当に悲惨な状況の中で生活をされている人たちが、実態としてまだ、たくさんいらっしゃいますし、貧困をどのように解決していくかということについても、私たちは思いを馳せなければいけないと思うのです。

ただ、その問題とは少し次元が違うかもしれませんが、ブラジルでも森林火災が起きたり、あるいは水害が起きたりということはあると思いますが、実は、災害というものが人と人のつながりや絆を強くしていくのです。私たちはそういった様々な災害、ある意味、戦争も含めてかもしれませんが、それに立ち向かい、そして自分たちの将来をしっかりと築くことは、1人ではできません。必ず協力し合うことでしか、できないわけです。ですから、そこでお互いの絆やつながり、家族もそうですし、コミュニティもそうですし、あるいは国としてのまとまり、さらに国と国、国境を越えたつながりも含めて、協力しあっていくことが大切です。

今回も能登の災害のときには、海外から多くの支援をいただきました。能登のために役立ててくださいと言って、外国の方たちから多大な募金をいただいたケースもあるし、実際に、ボランティアとして参加してくれた外国の方たちもいらっしゃいました。そういうことが、人と人のつながりを強めていくことにつながります。そうしたことが、地球上から争いをなくし、そして平和な社会になっていくための礎になってほしいのですが、残念ながらそう簡単にはいかない。人間はまだまだ、いろいろな知恵を出さなければならぬ。JAPAN TENT のような集まりが、世界平和を築くための礎になればいいなということも、改めて考えていきたいと思っています。

それでは、モロッコから参加のナナシリ・イメーンさん、お願いします。

**ナナシリ・イメーン氏**◆モロッコ出身で、文部科学省の国費留学生として去年から日本に来ているナナシリ・イメーンです。この素晴らしい場

に留学生代表としてお話しする機会をいただき、本当に光栄です。

まず最初に、ホストファミリーの皆様、温かく迎えてくださり、たくさん思い出をつくらせていただきました。本当にありがとうございます。また、このイベントを支える企業、運営して下さったスタッフ、ボランティアの方々、関係者の皆様にも深くお礼申し上げます。

今年は、能登地震の被災地でボランティア活動に参加する機会がありました。現地では被災された方や地元の方々と触れ合う中、本当に人のために何ができるのかを考えさせられました。一人一人が混乱の中で希望を持ち続けている姿を見て、私の心は強く動かされるのを感じました。微力ではありますが、被災地に寄り添い、支え合うことの大切さを学びましたし、今後も何度でも手を差し伸べていきたいと強く思っています。

JAPAN TENT の期間中も様々な国や地域、文化圏から集まった留学生や仲間たちと出会い、たくさん刺激を受けました。異なる言語や価値観、その違いが時には戸惑いとなることもありますが、互いを理解しようと努力することで、より強い絆が生まれることを実感しました。

これからの国際交流は、国境や言語の壁を越えてみんなで協力し、夢を実現していく世の中を築くことだと思います。私自身、モロッコと日本、そして世界の架け橋になれるよう、これからも努力し続けたいと思います。

**大内氏**◆この後、木村さんという方を紹介します。国土開発に関する専門家として発言をしてもらいますが、木村さんは、日本政府でつい最近まで官僚として働いていた方です。日本には国土交通省という非常に大きな役所があります。国土という名前が付いているから、例えば、地震のような自然災害にどう対応するかということも、非常に大きな役割の一つです。

日本の自然災害、あるいはそこからどういうふうな復興していくかということで、国はこんな準備をしていますとか、あるいは能登の地震について、木村さん自身がどのようにお考えになっておられるのか、ご紹介いただけますか。

**木村実氏**◆木村と申します。どうぞよろしく申し上げます。今、ご紹介いただきましたように、国土交通省というのはインフラストラクチャーとかトランスポーターションとか、運輸とかインフラを担当する役所です。中でも災害対策は、役所としても非常に重要なパーツでした。

個人的な経験でいえば、2011年に東日本大震災というかなり大きな、日本の東北地方が壊滅的な状況に陥るような非常に大きな地震がありましたけれども、そのときに日本は「復興庁」という新しい役所をつくりました。その新しい復興庁という役所に国交省から転籍、出向しまして、3年間でしたけれども復興庁で特に福島復興を担当しまし

## 留学生代表



キム スジョン  
(韓国・一橋大学)



シヤノーヴィチ ヤン  
(ベラルーシ・東京学芸大学)



マリノ リューカ  
(ブラジル・東京学芸大学)



ナナシリ イメーン  
(モロッコ・東京外国語大学)

た。先ほど、チェルノブイリの話がありましたけれども、当然、チェルノブイリの経験についてもかなり勉強させてもらい、復興の参考にしました。私が最初に福島に行ったときは、とにかく放射能汚染が酷いときでした。放射能事故なんて国際的にもあまり経験はありませんし、日本政府にとっても全く未経験の分野で、この先、この地域は本当に果たして復興できるのか、というのが正直な感想で、未来が見えないという状況で始めたというのが正直な思いでした。けれども今、被災から10年ちょっと経ちまして、見事に復興しています。

自然災害というのはやはり想像を超えてくるものですね。どの段階でも想像を超えてくるので、その都度、新しい体験ということになりますので、これからも決して油断をしてはいけないと思っています。日本政府としても、自然災害の中心は、やはり地震対策でしたけれども、最近は少し変わってきていて、気候変動による異常気象が非常に増えてきました。日本の場合も毎年のように集中豪雨、それに伴う洪水が起きてきていますので、もちろん地震も非常に大きな比重をかけていますけれども、災害対策の比重、特に集中豪雨対策が非常に大きなテーマになってきております。

災害の場合、対策としていろいろな要素がありますが、インフラストラクチャーをしっかりと整えるというのが一番大事です。日本政府としても、それはずっとやってきていました。ある時期までは、インフラだけである程度、災害を防除できた時期もあったのです。例えば、堤防を高くするとか、耐震比率を上げるとかいうのは一番単純ですけれども、そういう形でインフラをある程度、しっかりと整備していけば災害を防げると考えられていた時代が少し前までありました。けれども、今はもうそれを超えて自然災害の規模が大きくなってきていますので、インフラだけでなく、いろいろな要素を加味して災害対策を考えていかなければなりませんし、残念ながら地球温暖化は止まっていないので、異常気象はこれからも増えていくと思われま。そうすると、災害が起こる可能性も当然、高まります。減る要素が無く、増える要素だけがあるという状況なので、皆さんもそういう意識を常日頃から持っていたいただければありがたいと思っています。

最後になりますが、災害対策というのは大きく3つのフェーズがありまして、1つが事前防災です。これは地元で培っていく力です。事前防災はそんなに難しい話ではなくて、例えば、地震が起きたら津波が来るので、できるだけ高いところへ逃げるという知識を持っているとか、あるいは、そのために避難する場所を造っておくとかいったことです。これはインフラもそうですが、災害に備えて自分で頑丈に造っておくとか、水を家にためておくとか、非常食を備蓄しておくとか、そういう事前防災と呼ばれるものが第一のフェーズです。

2つ目のフェーズが、災害が起きたときに一番大事な応急対策です。応急対策は地元ではできないものです。被災地は被害を受けているので、これは国が助けます。国なり、ほかの地域の人たちが応急対策という形で応援に入ります。これは海外の場合であっても、違う国の方々が助けに来てくれる。例えば、東日本大震災のときも、海外レスキューチームがたくさん日本に救援に来ていただき、助けてくれました。そういう意味で、応急対策というのは外の力、外の人たちの力で支えていくということです。

第3のフェーズが、応急対策が終わって次は復興していこう、地域を元の姿に戻していこう、あるいはもっといい地域にしていこうというフェーズです。ここでまた、地元バトタッチされるわけです。ただ、地元の力だけでは、なかなか復興は厳しくて、当然、国も支援しますが、どちらかというのだんだん財政的支援になっていく。お金の支援はもちろんしていきますが、人的支援というのは、なかなかそま



でずっとは続けていけないわけです。地元の人たちは頑張って復興しようと思っていますけれども、なかなか地元だけではできない、あるいは精神的にも参ってしまうということが起きてきます。

そのときに、皆さんがボランティアで、短時間でもいいから復興に携わるというのは、被災地にとって極めて大きな力になります。外の人々が携わって元気をくれる、あるいは一緒にボランティア活動をする。それは皆さんが思っている以上に、地元の人たちにとっては支えになりますし、大事なことだと思っています。

発災直後は、たくさん報道されますし、いろいろな人がいろいろなところから助けに来てくれますけれども、残念ながら災害というのは、だんだん風化していくものです。忘れられていくのです。地元の人たちからすると、忘れられていくのが一番苦痛なわけですから。そうした復興のときに、自分たちも頑張るけれども、外から皆さんのような若い人たちがやって来て助けてくれるというのは、皆さんが思っている以上に地元にとって非常に大きな支援になる大事なことだということも、ぜひ、覚えておいていただきたいと思っています。

短い期間でしたが石川にご縁ができた皆さんですので、そのことを忘れずに、SNSで何か情報発信するだけでも構わない。それだけでも非常に力になるということを、皆さん覚えておいていただければと思います。**大内氏**◆ありがとうございます。ベラルーシから何かコメントはありますか。

**シヤノヴィチ・ヤン氏**◆ちょっとチェルノブイリの話に戻ると、例えばソ連時代、私の母は南の方にボランティアとして派遣されて、共同活動やボランティア活動に参加して、恐ろしい事件を乗り越えようと現地の人と一緒に頑張っていました。ですから、お互いに助け合ったり、思いやりの気持ちを持ちたりすることは、とても大事なことだと思えます。

**大内氏**◆東ヨーロッパに限らず、たくさんの民族が複雑な形で協力していて、残念ながらその民族同士が対立するというのがたまにあって、それが悲惨なことに結びつくこともありますが、逆に民族の壁を越えてつながるといことはおそらく、日本人より上手いのではないかと考えています。日本は単一民族かそうでないのかという議論はありますが、日本にも様々な歴史があって、日本人の多くは、他の民族と上手につき合うということ、これまで歴史的にもほとんど体験してこなかったように思います。そんな中で、このJAPAN TENTはまさに新しいフェーズを開くための良い試みだと思うのです。石川県のホストファミリーの皆さんは、そういう意味で世界の異なる民族の人たちと接する術を、ここで確認できたということではないでしょうか。

モロッコのイメーンさん、何か補足することがあったらお願いします。**シナシリ・イメーン氏**◆日本は経済大国ですし、いろいろな技術や資源もあります。モロッコは、資源はある程度はありますが十分に足りては

いませんし、技術を開発するような人材もあまりいないように思います。いたとしても、給料が低く、他の国に行ってしまう傾向が強いのです。若者の多くが、モロッコ国内に閉じ込められていると感じているのではないかと思います。本当はみんなモロッコから出たい、特に若者はモロッコから出たいという気持ちが高い。でもビザが無ければどこへも行けない。ただし、私のように留学の機会はいろいろあるので、留学はできるようになりました。ただ、留学したくてもいろいろな資格がないとできない。そういう難しさがあります。資源がない上に、教育もそこまで普及していないので、いろいろな面で難しいと感じることが多いのが現実です。

**大内氏◆**ありがとうございます。今、改めて大事なことを指摘してもらったと思います。

例えば石川県はきれいな水が豊富なので、石川県民が飲み水に困るということはずありません。モロッコの不安要素からすれば、全然レベルが違うと思います。今、彼女から提起された心配事のほかにも、湿度が極めて低い、湿度10%くらいしかないというようなところもあるのではないですか。

**ナナシリ・イメーン氏◆**そうですね。モロッコは湿度は高くないですけれども、温暖化のせいで最近はずっと高くなっています。

**大内氏◆**それと、飲み水ですね。安全な飲み水に苦労している人たちは、世界中にたくさんいます。仮に水があったとしても汚染されてしまっていたりして、アフリカの諸国には安全な水が手に入らないところが、たくさんありますし、アフリカ以外にもそういうところはまだまだ、たくさんあります。

**バク・ハヌル氏◆**韓国から来ましたバク・ハヌルと申します。私は、昨日行った能登で、来年から家庭科の教師になることが決まっています。ひとつ話をしますと、自ら助ける「自助」。近くの隣人を助ける「共助」。自治体や国と一緒に助ける「公助」の現場を間近に見てきて、これから私が教える生徒たちにも、そういう能登の自助、共助、公助をちゃんと伝え続けたいなと思いました。(拍手)

**大内氏◆**ありがとうございます。今、自分で自分を守るという大事な考え方について話してくれました。それはそれで、やらなければいけないのですが、周りの人たちと協力し合って守る。それから、それぞれの国が公の力で守るという3つのフェーズがあって、被災地では、それが同時に機能していなければならないということですね。

災害が起きたときの被災者の方々の辛い思いを取材して台本にし、皆さんに朗読という形で語ってもらうセッションが今回ありました。少

ずつでも互いに協力し合って助け合っていくことを再確認し、そのときに公が支援する。でも公だけで全てを解決できるわけではない。セッションを通じて、とても大事なことを学んでくれたと思いますし、ぜひ皆さんそれぞれの国に帰ったときに、そうした考え方をいろいろな方たちに語って、広めていただきたいと思います。

私は、やはり一緒にものを食べるというのが、最初のつながりになると思っています。私も世界のいろいろなところへ行きましたが、誰かとお会いして、一緒に何か食べる。できることなら食べるだけでなく、「ちょっとレシピを教えて」と言って一緒に作ってみるところまで行くと、全然それまでとは違ったフェーズで人と人とのつながりができるし、そういうつながりは一生忘れないものです。

このJAPAN TENTについても、JAPAN TENTが38年前にできたときには、まだネットワークなんていう、インターネットそのものもまだスタートしていないくらいの時代でした。海外とつながるには電話くらいしか手段がない。それともとても料金が高い電話しか掛けられないという時代でした。けれども、皆さんは今、インターネットで瞬時にお互いにつながるといって、ものすごい武器を持っている。それをJAPAN TENTで生かしてほしいですね。

震災復興のために大事な言葉があるのです。「復旧」ではなくて「復興」です。実は、これは随分前から日本でも話題になっていることです。復旧というのは元に戻すということ。「復」は分かると思いますが「旧」は元に戻す。被災した当初は、やはり元に戻りたいという気持ちを皆さんが持たれるのは、当たり前です。ただ、いろいろなことを考えると、元に戻すというのは必ずしも正解ではない。

日本語の中に「災い転じて福となす」という言い方があります。自然災害を含めた、いろいろな災いをきっかけにして、新しい社会をつくっていく。だから、「復旧」ではなくて「復興」なのだ。次の世代のために、新しい街なり、新しい人とのつながりや新しい社会をつくっていくという考え方を、私たちは学んできました。そして、被災地でも多くの日本の方たちに広がり始めている気がします。木村さん、復旧ではなくて復興という考え方にコメントをいただけますか。

**木村氏◆**そうですね。復興ですよ。新しくつくった組織も復興庁ですし、元に戻すのではなくて、より良くすること。特に東日本大震災のときは、そういう意識でみんな前を向いて進んでいました。そんな意味では、能登の今回のケースも同じだと思います。元に戻すということよりは、もっと先を見据えて、もっとよりよい地域社会をつくっていくことと





いうことだと思います。

**大内氏**◆そうですね。

**木村氏**◆あと、せっかくなのでもう一つお話をさせてもらいます。今、日本は人口がすごく減少していています。2008年にピークを迎えて、その後はずっと人口減少が続いていて、この先、数十年にわたって人口が増える見込みは無いという状況です。能登のような地域は、まさにその先進地といえますか、人口が減っている

地域です。その最も減っている地域がさらに今回、災害でダメージを受けたわけです。ですから、この復興の道のりは決して平坦ではなく、むしろ厳しい道だと思います。

ただ、一つ人口が減った地域に元気を取り戻していただく施策として、最近、日本政府は「関係人口」という言葉を使い始めました。関係というのはリレーションシップの関係です。住んでいる人の人口自体は減っていきますが、その地域に関係している人、定期的に来る人でもいいし、その地域の産品を定期的に買ってくれる人でもいいし、その地域のプロジェクトに資金援助をしてくれる人でもいいし、場合によっては観光でもいいというふうに、どんな関係でもいいから、何かしらその地域が好き、あるいは縁があって、地域に関係していく人口を増やしていこうというのが、今、日本の多くの地域でメインの施策になっています。

能登地域も居住人口は、なかなか増えてはいかないでしょうけれども、皆さんのような関係人口を増やすことによって、地域は元気になると思うのです。これは、きっと大きな力になっていくはずですよ。皆さんはそういう意味での関係人口ですので、何か力になってあげたいと高い目標を掲げるのではなくて、忘れない程度に関係を保っているだけでも力になると思います。そのことを頭の片隅に少し意識していただくと、ありがたいですね。

**大内氏**◆ありがとうございます。大事な言葉を提起してもらいました。

「関係人口」ってわかりますか。リレーション。私も能登で地震があった後、すぐに何をしたかという、まずボランティアで駆けつけたい気持ちもありましたが、少しでも思っただけで買い出しに来ました。能登の産物で、ある程度、出品ができる産物です。皆さんも今回味わった方もいらっしゃると思いますけど、能登には有名な醤油の類であったり、お酒の類であったり、あるいは海産物であったりといったものが、たくさんありますし、農産物も結構ありますけれども、幸い被災はしたけれども、ある程度売りに出せるものを買出しに。たくさん買うために金沢に来たんです。

何でもいいのですが、能登に思いを馳せて何か買えば、それはまさに関係人口の一人になっていくわけです。ぜひ、そういうことも考えていただきたいと思います。

時間が迫って来ましたが、パネラーの方でも、逆に会場の方でも構いません。何かありませんか。

**マリア氏**◆こんにちは。マリアと申します。今、東京大学博士課程2年生です。私は心理学の研究をしていて、先ほど木村さんがおっしゃったことについて、実現できればいいなと思っています。

今回、能登半島をはじめとした自然災害の例をみると、心がつながると思いました。お互いを助け合ったり、お互いに何か支援したり、いろいろな地域の方が来て、関係人口のような繋がりができた。自然災害では、そういう関係になることが多いのかもしれませんが、私の出身

地であるロシアでは、逆にそうではなくて、人が別れる、けんかになる、もう会わないという状況になることもあります。災害によって別れてしまうのではなく、心が繋がりが、成長につながればいいと思います。

**大内氏**◆ありがとうございます。そろそろ時間なので、クロージングのために、私から皆さんにお話をしたいと思います。

このJAPAN TENTでは、今回は「自然災害を乗り越えて」というのがテーマでしたけれども、共通テーマは「思いやりの心で、ふるさとと愛」でした。それぞれの皆さんが、ふるさとをお持ちだと思います。そのふるさとをどう愛していくのかについて、改めて、ここで再確認したいと思うのです。

自分だけのふるさと、ということではなく、皆さん誰しもがふるさとを持っています。そのふるさととふるさとが、お互いに仲が悪くなるようなことも残念ながら起きるわけです。先ほど、マリアさんからありました。残念ながら今、世界はウクライナもそうですし、パレスチナもそうですし、あるいはそれ以外のところでも、人が憎しみ合って戦争が起きている国もあります。では、戦争をどう終息させ、その次にいかに平和な時代をつくり上げていくのか、というのとも人の繋がりがあってこそだと思うのです。歴史をつくってきた人たちが、この地を治めるといことは最大、最終の目標かもしれませんが、そのときに日本中の人たちの力を借りてつくっていったというのが石川県の歴史です。ここは伝統工芸が盛んで、皆さんが日本の文化を学ぶには最もふさわしい街です。京都ももちろんいいのですが、京都は金沢と違って平安時代ですから、もっと前の公家文化の中心地でした。金沢は江戸時代、武家文化という意味で、京都と金沢の文化はかなり違うのです。そんなことは今日のテーマではないので、このくらいにしておきますが、皆さん、いい機会ですから是非、石川県にどうしてこんなにいろいろな素晴らしい伝統工芸が育ち、食文化が根付いたのか、学んでみてください。これは実は、そんな昔からあったわけではなくて、みんなの努力の成果として生まれたということも、再認識していただきたいと思います。

能登にあったものも、これから復興していくと思いますし、もしかすると皆さんの時代、さらに次の時代には能登に新しい文化が生まれている可能性も十分あると思います。そのときにぜひ、皆さんの力を貸してください。皆さんが自分たちも応援できる、何かのときに能登を思う。あるいは石川を思い起こす。そして、ホストファミリーをはじめ、皆さんと人のつながりを改めて確認して、自分に何ができるかについて考えていただきたいということ、皆さんにお願いして、今回のJAPAN TENTの最終セッションを終えたいと思います。

皆さん、ご清聴、ご協力、ありがとうございました。(拍手)

最後に一つだけ。私はここでコーディネーター役を引退します。来年からは木村さんが私の後任でやることになっていますので、よろしくお願ひします。

【司会】 ありがとうございます。

JAPAN TENTアピール2025採択

閉会あいさつ

戒田由香里 (JAPAN TENT実行委員会実行委員長・石川県文化観光スポーツ部長)

新保 博之 (金沢市副市長)

留学生代表あいさつ

タムワンシン (シンガポール・JASSO東京日本語教育センター)

ありがとうJAPAN TENT (留学生によるメッセージ・セッション)

学生ボランティア代表あいさつ

笹村 優奈 (金沢大学)

留学生はそれぞれの帰路に



“石川の家族”と絆確認  
—別れ惜しむ

ジャパンテントアピールの採択に続き、実行委員会実行委員長の戒田由香里石川県文化観光スポーツ部長、新保博之金沢市副市長があいさつしました。

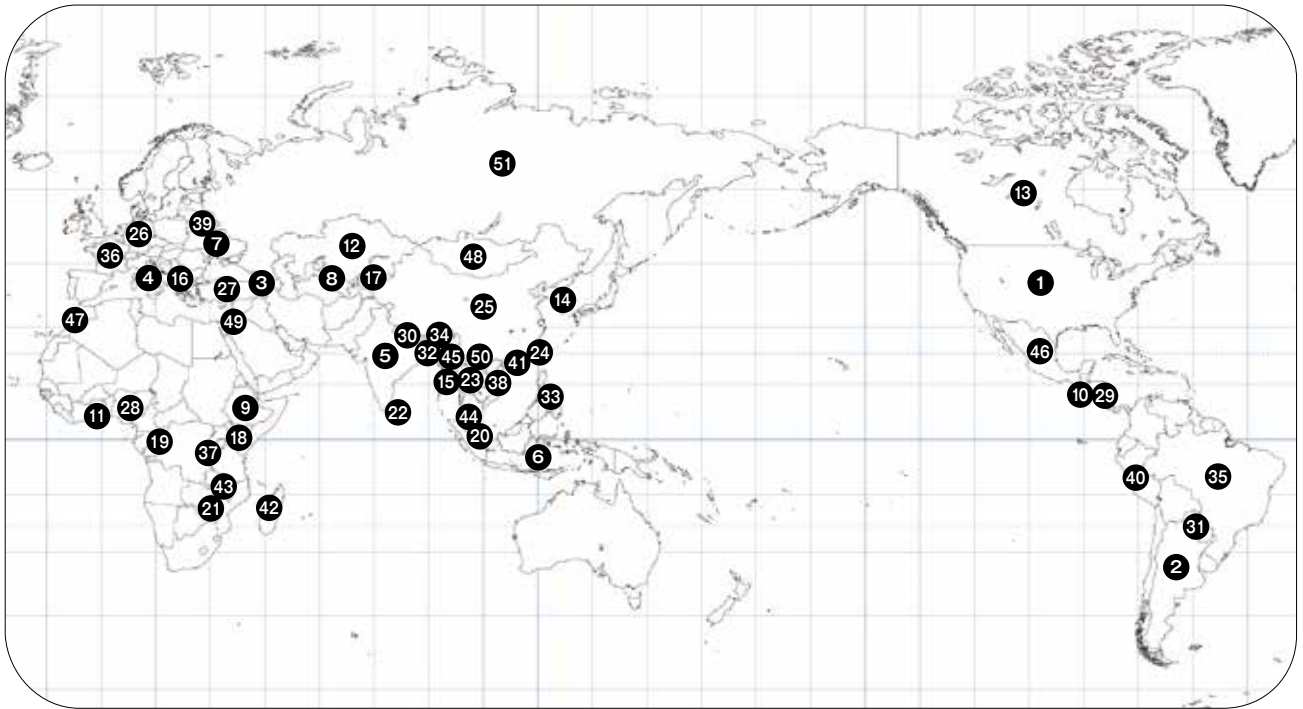
思い思いにメッセージを語るセッションでは、家族のように温かく接してくれたホストファミリーやボランティアに感謝する声が相次ぎ、互いに別れを惜しまました。



# 参加留学生の出身地 大学別一覧

## ■ 世界地図で見る留学生の出身地

- |           |           |          |           |          |        |
|-----------|-----------|----------|-----------|----------|--------|
| ① アメリカ    | ⑩ エルサルバドル | ⑲ コンゴ    | ⑳ ナイジェリア  | ㉓ ブルンジ   | ㉔ メキシコ |
| ② アルゼンチン  | ⑪ ガーナ     | ㉕ シンガポール | ㉖ ニカラグア   | ㉗ ベトナム   | ㉘ モロッコ |
| ③ アルメニア   | ⑫ カザフスタン  | ㉙ ジンバブエ  | ㉚ ネパール    | ㉛ ベラルーシ  | ㉜ モンゴル |
| ④ イタリア    | ⑬ カナダ     | ㉝ スリランカ  | ㉞ パラグアイ   | ㉟ ペルー    | ㊱ ヨルダン |
| ⑤ インド     | ⑭ 韓国      | ㊲ タイ     | ㊳ バングラデシュ | ㊴ 香港     | ㊵ ラオス  |
| ⑥ インドネシア  | ⑮ カンボジア   | ㊶ 台湾     | ㊷ フィリピン   | ㊸ マダガスカル | ㊹ ロシア  |
| ⑦ ウクライナ   | ⑯ 北マケドニア  | ㊺ 中国     | ㊻ ブータン    | ㊼ マラウイ   |        |
| ⑧ ウズベキスタン | ⑰ キルギス共和国 | ㊽ ドイツ    | ㊾ ブラジル    | ㊿ マレーシア  |        |
| ⑨ エチオピア   | ⑱ ケニア     | ㊿ トルコ    | ㊿ フランス    | ㊿ ミャンマー  |        |



## ■ 参加留学生の在学学校名

### 大学・専門学校等

亜細亜大学／大阪公立大学／大阪女学院大学／大阪女学院短期大学／大阪大学／学習院女子大学  
 ／金沢工業大学／神戸外語大学／共栄大学／京都経済短期大学／京都女子大学／京都大学／京都  
 ノートルダム女子大学／近畿大学／神戸女子大学／神戸大学／国士舘大学／国連大学／滋賀大学／事業創造大学院大学／  
 実践女子大学／上越教育大学／昭和女子大学／政策研究大学院大学／摂南大学／多摩美術大学／千葉大学／中央学院大  
 学／筑波大学／帝京大学／テンブル大学／東海大学／東京科学大学／東京外国語大学／東京学芸大学／東京経営短期大  
 学／東京女子大学／東京大学／東京農工大学／長岡技術科学大学／長岡工業高等専門学校／南山大学／新潟県立大学／  
 日本経済大学(福岡)／日本健康医療専門学校／日本工学院専門学校／阪南大学／一橋大学／福井大学／文化外国語専門学  
 校／北陸先端科学技術大学院大学／北陸大学／明治大学／ヨシダ日本語学院／早稲田文理専門学校／JASSO東京日本語  
 教育センター (順不同)

# 留学生の声

素晴らしい機会をいただきありがとうございます! とても楽しくて、今までないホームステイを体験できて、ホームステイと仲良くなって嬉しいです。また、小松市の国際交流の会長さんとスタッフのみなさんにも感謝します。浴衣を貸してくれたり、当地の伝統文化を体験させてもらったり、サポートしてくれてとても嬉しかったです。

CAO HUI (中国/京都大学)

ジャバンテントの経験は全体忘れない経験になると思います。石川県や七尾市についていろいろ習えて嬉しいです。

Fernandez Lambrecht Sabrina  
(アルゼンチン/文化外国専門学校)

このプログラムが作られて本当に感謝しています。新しい人々と出会い、良い経験を積むことができました。

Suon Sreynet (カンボジア/北陸大学)

普通の生活にかけがえないの経験をさせていただきました。日本人の一般の家庭の後半、生活にも関わっていました。ホストファミリーに会う前に、楽しみにしていたが、不安の気持ちもたくさんありました。しかし実際に出会って、4日間一緒に話したり、遊びに行ったりして、この家族でいいなあって思うようになりました。23日から体調が崩れてしまったので、行きたい場所に行けてなかったがホストファミリーの皆さんがいつも優しくしてくれてありがとうございます。素敵な思い出を作りました。ジャバンテント2025を支えてくださる皆様本当にありがとうございました。

TRAN THI LINH (ベトナム/帝京大学)

世界中の参加者と交流でき、とても貴重な経験となりました。運営も丁寧で安心して参加できました。心より感謝申し上げます。

Abdyzhaparov Kuban  
(キルギス共和国/事業創造大学院大学)

今回は初めてジャバンテントに参加しました。日本の家族と住むのが初めてででしたし、他大からの留学生と交流もできました。京都に住んでいるので石川という場所はなかなか行けないし、石川の内灘町の素敵なところ、暖かさが実験することができました。

Htet Eaindra Win (ミャンマー/京都経営短期大学)

ジャバンテントに参加できて本当に良かったです。ホストファミリーやボランティアの皆さんのおかげで、日本の文化を深く体験することができ、忘れられない思い出になりました。また、世界中から集まった参加者と交流できたことも大きな財産になりました。運営もとても丁寧で、安心して楽しく過ごすことができました。もし可能であれば、今後はもう少し自由時間があると、さらに良いと思います。素晴らしいプログラムを本当にありがとうございました。

Lim Tong En (マレーシア/長岡工業高等専門学校)

本当に温かく迎えてくださり、家族の一員のように感じました。四日間という短い間でしたが、たくさんの思い出を作り、ホストファミリーとの絆を深めることができ、とても嬉しかったです。

TAMANG RABin (ネパール/南山大学)

イベントの運営の素晴らしさに大変感銘を受けました。ボランティア、地元自治体、そしてホストファミリー間の連携は効率的かつ効果的でした。これ以上ない素晴らしい経験でした。

Ryan Yi (カナダ/東京大学)

今まで日本で経験した一番特別な経験だった。色々な国の人と仲良くなって、日本人の普通生活を体験するのはとても良いと思います。そして災害など経験した人々の感情を聞いて、共感するのは俺にとって、新たな視点を与えました。

GUL SAFFAN (トルコ/早稲田文理専門学校)

# ホストファミリーの声

昨年大変良い経験をさせて頂きました。私達もより石川小松の事を学びますし、留学生の国の事を知りきっかけになっています。娘の自由研究は昨年の留学生の母国(ベトナム)について調べまとめました。

寺見孝宏(小松市)

もう少し長くてもよいと思った、仕事を休むことなく4日間過ごせたので助かりました。やっと話しかけてくれたり、笑顔を見せてくれるようになった頃にお別れだったので、もう少し日数があったらお互いもっと行きたいところや食べたいもの、知りたいことを話せたと思う。

松本あかね(七尾市)

日本語が堪能な方だったので、会話に困ることはなく生活できました。とてもいい体験(そば打ち、和菓子作り、座禅体験)など、普段なかなか出来ないことばかりでした。

森智美(羽咋市)

今回2回目だったのですが毎回留学生と一緒に石川県の新しい発見、魅力も知ることができ、子供たちも異文化、言語などに学びがあり「いろいろな国へ行ってみよう」と興味をもってくれるようになったことがとても嬉しかったです。ホストファミリー同士での交流もジャパントの醍醐味かなと思います。今年も楽しい夏の思い出ができました。ありがとうございました。

浅沼麻衣子(白山市)

すごく可愛くていい子でした。同じ年頃の娘が4人いるので、うちとけるのも早く期間中ずっと笑って過ごしていました。家族にとっても良い経験ができてよかったです。できれば内灘から参加でも歓迎式典やさよならセレモニーに出席したかったです。

石本早香(内灘町)

日本語がとても上手で、お土産を沢山用意してくれたり、気配りのできる礼儀正しい子でした。とても楽しくあっという間の4日間で別れの際には寂しくも感じました。母国のことや現在の日本での生活、今後の将来のことなど色々な話をし、私達にとっても貴重な体験となりました。

安下裕清・晴香(かほく市)

最初は緊張していたと思いますが、最終的にUNOをして盛り上がりかなり仲良くなったので、カードゲームでコミュニケーションを取るのを楽しみたいと思います。今回の交流が終わった後で留学生の国に行く約束もできたので楽しみにしたいと思います。

吾妻広之・桜子(加賀市)

子どもがいる家庭を希望してくれてきた事もあり、子どもと一緒に遊んでくれたり、お世話をしてくれました。積極的に洗い物を手伝ってくれたり、とても助けられた面もありました。

山田知美(野々市市)

とても心優しく素直な子で、一緒に過ごせてとても充実したひとときでした。留学生との異文化の交流を通して、私たち大人も子ども達も驚きや感動の連続でした! 留学生と心を通わせることが出来た4日間は私達家族にとって宝物です! ありがとうございました。

藪中百代(津幡町)

受け入れの留学生が2人から1人に変更になり、心配もあったが、逆に1人だったからこそ自国の話を聞いたり、料理を紹介してくれたり濃いつ時間を過ごせた。日本語が流暢で子ども達ともコミュニケーションをたくさんとってくれた。もう少しこちらがおもてなしできたらよかったがしてもらったことばかりで申し訳ないくらいだった。

瀧川陽子(志賀町)

# 学生ボランティア

JAPAN TENTは学生ボランティアが運営を支えることが伝統になっています。今年も石川県内外から41人の学生が集まり、どのようにしたらスムーズに運営ができるか、アイデアを出し合いながら、留学生と交流しました。

## ボランティア参加学生

石川県立看護大学／石川県立大学／石川工業高等専門学校  
 金沢医科大学／金沢学院大学／金沢工業大学／金沢星稜大学  
 金沢大学／金沢大学附属高等学校／関西学院大学／関東学院大学  
 公立小松大学／国際基督教大学／国際動物看護専門学校  
 上智大学／ZEN大学／東京大学／同志社女子大学／日本大学  
 北陸学院大学／立命館アジア太平洋大学  
 石川県立金沢西高等学校／石川県立七尾高等学校  
 北陸学院高等学校

(順不同)



受け入れ準備を進める学生ボランティア

今年のJAPAN TENTでは、能登半島での復旧支援など、初めての試みもありました。留学生とボランティア、いろいろな背景の違いをもつ方と交流し、日本の文化を自分自身も再認識するとともに、たくさんの考え方や価値観を吸収した、とても刺激のある時間でした。国際交流の楽しさを知ったとても貴重な機会だったと感じています。これからも何かの形でボランティアや国際交流に関わっていきたいです。

リーダー：笹村優奈(金沢大学3年)

留学生やボランティア学生の行動力に刺激を受け、毎回大きなモチベーションにつながることから、今年も参加したいと思い参加しました。今年は能登に関するプログラムもあり、さまざまな背景を持つ人たちが、それぞれの立場から能登を思い、一つの気持ちを共有できた時間だったと感じました。

サブリーダー：高幸紀心(石川県立看護大学4年)



留学生だった父が参加したJAPAN TENTを語った思い出が私を金沢へ導いてくれました。今回はその魅力を伝える側になりたいと、留学生ボランティアとして参加しました。運営の方々や学生ボランティアの皆が本当に明るく、常に声をかけてくれたおかげで、すぐに仲間になりました。国籍や立場を忘れて、一つの目標に向かって全力で協力し合えた時間は、私にとって一生の財産です。この素晴らしいチームの一員になれたことに心から感謝しています。

サブリーダー：Tran Thi Kim Hoan(金沢大学3年)

JAPAN TENTでの経験は異文化交流の素晴らしさや言語に留まらないコミュニケーションの大切さ、また地元石川の素晴らしさを留学生と過ごす事で再発見する事が出来ました。JAPAN TENTに参加できたことをとても嬉しく思います。また機会があれば参加し、多くの発見をしていければと思います。

山岸和奏(七尾高等学校 2年)

今年のプログラムで最も印象に残っているのは震災復興に関するプログラムです。地元が能登なので当時を思い出して辛く感じる場面もありましたが、一生懸命取り組む留学生の姿を見て、これもまた国際理解のひとつとして発信していくことが大切だと気づくことができました。

駒井李帆(北陸学院大学4年)

# 広報・大会経緯

## ■ 開催ポスター(B2サイズ)



## ■ エントリーポスター(B3サイズ)



## ■ 開催プログラム



## ■ 新聞パブリシティ



## ■ 第38回JAPAN TENT大会経緯

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月 19日 事務所開設</li> <li>・ 6月 6日 JAPANTENT開催委員会総会</li> <li>・ 6月9-10日 市町連絡協議会(オンライン会議)</li> <li>・ 7月 8日 第1回学生ボランティア会議</li> <li>・ 7月 23日 市町連絡協議会(資料送付)</li> <li>・ 7月 27日 ホストファミリー(金沢)説明会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月 12日 第2回学生ボランティア会議</li> <li>・ 8月 20日 留学生が金沢に向け出発</li> <li>・ 8月 21日 開幕・1日目</li> <li>・ 8月 22日 2日目</li> <li>・ 8月 23日 3日目</li> <li>・ 8月 24日 最終日・閉幕</li> </ul> |
|---|--|

# 特集記事

北國新聞 掲載

■ 6月7日 朝刊

## 奥能登で復興支援活動

JAPAN TENT 関係委員会 8月21～24日、15市町で



**被災地思う朗読会も**

「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、6月7日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 7月9日 朝刊

## 留学生交流へ期待

金沢で第1回学生会議



「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、7月9日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 7月28日 朝刊

## 異文化交流 影響を期待

金沢で第1回学生会議



「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、7月28日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月10日 朝刊

## 留学生交流へ最終確認

学生ボランティアが会議

「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月10日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月13日 朝刊

## 留学生交流へ最終確認

学生ボランティアが会議

「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月13日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月21日 朝刊

**ジャパンテントに意欲**

北国新聞の記者が、8月21日、金沢市で開かれた「ジャパンテント」の記者会見に出席し、関係委員会の活動について取材した。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。



## JAPAN TENT

奥能登の石川体験へ  
130人受け入れ万全

「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月21日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月21日 夕刊

## 思いやりの心育む夏



## JAPAN TENT

開幕、金沢に留学生129人集結

「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月21日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月22日 朝刊

## 友好のバトン父から娘へ

JAPAN TENT ベトナム出身 金大3年・ホアンさん



「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月22日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月24日 朝刊

## 復興の願い一緒に担ぐ

JAPAN TENT 奥能登で支援プログラム



「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月24日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

■ 8月25日 朝刊

## 「震災共に乗り越える」

JAPAN TENT 閉幕



「奥能登復興支援活動」の中心となる「関係委員会」が、8月25日、金沢市で開かれた。関係委員は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

関係委員会は、JAPAN TENT実行委員会、関係機関、関係団体、関係者などから構成される。委員長は、関係委員会の代表として、関係機関の代表者が務める。関係委員会は、8月21～24日に奥能登15市町で行われる支援活動の準備を進め、被災地への思いを込めて朗読会を開催する予定だ。

# JAPAN TENTメモリアル

1988年(昭和 63年)に第1回大会を開催して以来、毎年、国内や世界に目を向け、さまざまなゲストとともに留学生と県民の交流を推進してきました。これまでの1回大会から37回大会までの軌跡をたどります。

## 第1回 「日本を支える留学生交流」

1988年(昭和63年) 7月21日～24日

皇太子ご夫妻(現上皇)ご臨席

開催は4日間。金沢市と輪島市を会場に開催。輪島での歓迎レセプションには皇太子ご夫妻(現天皇后両陛下)がご臨席、世界から参加した留学生を温かく励まされた。



## 第2回 「心の交流・わかちあう未来」

1989年(平成元年) 8月3日～9日

開催期間が1週間に延び、会場を金沢市と能登全市町村に拡大。地域に根ざした草の根の国際交流を図るため、全宿泊を一般家庭でのホームステイとした。



## 第3回 「明日の世界をつくる若者の夢と希望」

1990年(平成2年) 7月19日～25日

参加留学生がアジアを中心にヨーロッパ、南北アメリカなどに広がりを見せた。留学生シンポジウムでは「平和」をめぐって活発に討議した。



## 第4回 「新しい世界と日本への期待」

1991年(平成3年) 7月31日～8月7日

大会を支えるホストファミリーや支援団体が年々増え、ボランティアは総計5000人を数えた。市町村プログラムも工夫され特色ある受け入れが行われた。



## 第5回 「“The earth mind” 世界からのメッセージ」

1992年(平成4年) 8月21日～29日

留学生の参加国・地域が飛躍的に伸び、72カ国・地域から留学生が参加。新たに加賀地区の5市町村が受け入れ、金沢会場では世界の料理屋台が登場した。



## 第6回 「私の日本見聞録～夢」

1993年(平成5年) 7月22日～29日

各国の大使館等の募集協力により、86カ国・地域の留学生が参加。また県内の41全市町村(当時)が留学生を受け入れ、石川県を挙げての国際交流イベントに成長した。



## 第7回 「私の中の世界、私の中の家族」

1994年(平成6年) 8月4日～11日

過去最多の100カ国・地域からの留学生に加え、外務省招聘の「第21回東南アジア元日本留学者の集い」52人も初参加。国際交流はさらに充実した。



## 第8回 「私たち地球市民・交流から貢献へ」

1995年(平成7年) 7月27日～8月3日

国際交流推進で  
外務大臣表彰受賞

歓迎式典、歓迎レセプションに紀宮さま(現黒田清子さん)がご臨席。留学生たちと和やかに歓談し、地元ボランティア学生の活動も励まされた。



## 第9回 「私たち地球市民・コミュニケーションは言葉を超えて」

1996年(平成8年) 8月1日～8日

JAPAN TENTのホームページを開設し、世界各地へ情報発信した。情報交換も可能となり、国際交流のさらなる推進を図った。



## 第10回 「21世紀、世界共生への道」

1997年(平成9年) 8月1日～8日

ガリ元国連事務総長招き  
「世界フォーラム」を開催

ガリ氏の特別講演、世界6カ国の大使・公使からの特別リポート、マハティール・マレーシア首相(当時)とのテレビ会議を開催。小杉隆文部大臣(当時)をはじめ中央省庁、経済界から多数参加いただいた。



## 第11回 「限りある地球：21世紀、世界共生への道」

1998年(平成10年) 7月30日～8月6日

事業内容の充実を図りJAPAN TENT夏期大学を創設。ガリ元国連事務総長の基調講演をはじめ、留学生シンポジウム、世界特派員フォーラムを実施した。



## 第12回 「21世紀、人と地球の共生：アースマインドの時代」

1999年(平成11年) 7月30日～8月6日

国際日本文化研究センター教授だった川勝平太氏(現静岡県知事)をコーディネーターに迎えてプログラムを改編。「アースマインド」をテーマに留学生国際シンポジウムを行った。



## 第13回 「グローバルマインド：地球の中のJAPAN TENT」

2000年(平成12年) 7月28日～8月4日

「平和と共生」をテーマに元国連事務次長・明石康氏の特別講演を開催。日本の伝統文化や工芸を学習体験する金沢職人大学校も19コースに拡充した。



**第14回 「石川で知る日本人の心」**  
2001年(平成13年) 7月27日~8月3日

文部科学省の「留学生交流功労者表彰」受賞  
留学生受入れ制度100年記念「留学生交流功労者表彰」を文部科学省から授与され、さらに石川の奥深い伝統工芸や芸能をホストファミリーとともに数多く体験した。



**第15回 「石川で触れる『ふるさとの心』」**  
2002年(平成14年) 7月26日~8月2日

特別プログラムとして緒方貞子元国連難民高等弁務官の記念講演を行った。ミヤンマー、中国から参加留学生OBを招き、JAPAN TENTの意義を再確認した。



**第16回 「禅と善のふるさと石川」**  
2003年(平成15年) 8月1日~ 8日

板橋興宗線持寺祖院住職(当時)の基調講演などで、石川 の精神風土と文化土壌を学んだ。初代JAPAN TENT大使35人が任命された。



**第17回 「ふるさと石川もてなしの心」**  
2004年(平成16年) 7月30日~8月6日

山折哲雄国際日本文化研究センター所長(当時)の基調講演やウエルカム石川茶会を実施。留学生は茶の湯の心、一期一会に込められた石川のもてなしの心に触れた。



**第18回 「ふるさと、たくみの心」**  
2005年(平成17年) 7月29日~8月5日

川勝平太氏、コシノジュンコ氏、辻口博啓氏を交え特別鼎談を開催。留学生たちは金箔、陶芸、漆、加賀友禅、和菓子など、石川が受け継ぐ職人の手わざを体験。日本のものづくりの心を学んだ。



**第19回 「ふるさと愛」**  
2006年(平成18年) 7月29日~8月5日

皇太子さま留学生を励ます  
皇太子さまが金沢城公園で行なわれた「JAPAN TENT大使の集い」をご視察。JAPAN TENT の精神を世界に広げる留学生に励ましの言葉を贈られた。



**第20回 「ふるさと愛」**  
2007年(平成19年) 7月28日~8月4日

桂文珍氏の特別講演や、タイ、中国、アルバニアなどからの参加者による「参加留学生OBサミット」を開催。20回の節目を祝うとともに、地球市民としての自覚を語り合った。



**第21回 「ふるさと愛」**  
2008年(平成20年) 8月21日~27日

留学生やホストファミリーが参加しやすいよう期間を8月下旬に設定。金沢職人大学校は2日に拡充、23コースを開講、留学生は2つの講座を体験した。



**第22回 「ふるさと愛」**  
2009年(平成21年) 8月20日~26日

「留学生による袖倉島調査」を行い、あん・まくどなど氏をゲストに迎えて留学生国際シンポジウムを開催した。また、台湾の利水事業に尽力した金沢市出身の八田興一技師の足跡を訪ねる特別プログラムも実施した。



**第23回 「ふるさと愛」**  
2010年(平成22年) 8月19日~25日

宗教学者の山折哲雄氏、作家の青木新門氏日本子守唄協会理事長の西館好子氏を招き、留学生国際シンポジウムを開催した。



**第24回 「ふるさと愛」**  
2011年(平成23年) 8月18日~24日

留学生国際シンポジウムでは、3月11日に起こった東日本大震災に寄せられた各国からの復興支援、ボランティア活動についても語り合った。国や民族を超えた友情の絆の大切さを再確認した。



**第25回 「ふるさと愛」**  
2012年(平成24年) 8月23日~29日

ベトナム、中国、ブルガリアの参加留学生OBを交えて、同窓会の「留学生国際シンポジウム」を開催した。また、「私のふるさと、お国自慢」をテーマにしたビデオ・メッセージを募集、世界各国から届いた映像を各会場などで放映した。



**第26回 「ふるさと愛」**  
2013年(平成25年) 8月22日~28日

地元ボランティア学生と留学生が小グループで金沢の街を散歩しながら交流を深める「金沢まるごと散歩」を新たに開催。また、5人の留学生代表が石川の夏まつりを体験、「留学生トーク・フォーラム」で映像も交えて報告した。



**第27回 「ふるさと愛」**  
2014年(平成26年) 8月20日~26日

能登町「春蘭の里」と白山尾口で泊2日の「石川の里山里海体験」を実施。留学生は石川の豊かな自然に触れるとともに、風土の特性を生かした県民の暮らし方に理解を深めた。



# JAPAN TENTメモリアル

第28回

「ふるさと愛」

2015年(平成27年)8月20日~26日

能登杜氏をテーマにしたドキュメンタリー映画「一献の系譜」で票開け、県内各地の個性ある伝統的な地域文化とあたたかい人々の心に触れた。学生テントでは次代を担う若者同士が交流を深めた。



第29回

「ふるさと愛」

2016年(平成28年)8月18日~24日

「金沢の文化とものづくり」を演題に前々金沢市長山出保さんの特別講演を実施した。JAPAN TENTフェスタでは、留学生がホストファミリーやボランティア学生たちと一体となり、盛り上がった。



第30回

「ふるさと愛」

2017年(平成29年)8月17日~23日

日本留学中に剣道と出会い、スターウォーズだと感動したことから日本の武道に本格的に取り組む「礼に始まり礼に終わる」と人間の成長について語った。



第31回

「ふるさと愛」

2018年(平成30年)8月23日~29日

「日本の文化『茶道と心のかたち』と題して茶道裏千家今日庵業躰(こんにちあんぎょうてい)の奈良宗久さんの特別公演を実施した。留学生は茶の湯に関する講演で日本の文化に理解を深めた。



第32回

「ふるさと愛」

2019年(令和元年)8月22日~28日

恒例のジャパント茶会のお呈茶で歓迎され、各市町でのプログラムに参加したあと、金沢プログラムでは「まるごと金沢職人めぐり」「世界を体感する世界一多国籍な授業」「国連大学・JICA北陸センターとの共同企画「持続可能な開発目標」」などに取り組みました。



第33回

「ふるさと愛」

2020年(令和2年)8月29日

ふるさと愛オンラインフォーラム  
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から通常開催を断念し、オンラインで世界の五大洲をつないで「JAPAN TENTふるさと愛フォーラム」を開催し、世界中で活躍している留学生JAPAN TENT大使たちと国際交流の未来を語り合った。



第34回

「ふるさと愛」

2021年(令和3年)8月28日

ふるさと愛オンラインフォーラム  
新型コロナウイルスの影響で、この時こそ世界中に散らばっているジャパント大使をオンラインで結び、さまざまな課題を共有して絆を深めようと国際交流をつなぐこれからのJAPAN TENTについて語り合いました。



第35回

「ふるさと愛」

2022年(令和4年)8月18日

1 day JAPAN TENT  
コロナ禍の中で、石川の工芸アカデミー・国立工芸館・石川県立能楽堂・金沢卯辰山工芸工房・大樋美術館で石川の工芸文化を学び、加賀友禅染め付け体験・和菓子作り体験で具体的にものづくりの心に触れました。



第36回

「ふるさと愛」

2023年(令和5年)8月17日~19日

私たちのジャパント  
JAPAN TENT夏季大学として、日本舞踏西川流の西川千雅家元が日本の伝統文化を紹介。隈取りのメーキャップを説明したうえで、迫力満点の連獅子を披露した。洗練された日本の伝統芸能を堪能した。



第37回

「ふるさと愛」

2024年(令和6年)8月22日(木)~25日

世界からの留学生たちは、コロナや能登半島地震を経験し、被災者に寄り添うことから人を思いやることの大切さを学びました。大きな希望のメッセージパネルには「能登に届け、と世界から寄せられた希望のメッセージ」などで被災者へ心からのエールを送った。



# 開催委員会・実行委員会

## 【開催委員会】

### ◆顧問

飛田 秀一（金沢経済同友会理事・相談役、石川県観光連盟会長）  
 金井 豊（北陸経済連合会会長）  
 安宅 建樹（石川県商工会議所連合会会頭）  
 高松喜与志（石川県経営者協会会長）

### ◆総裁

馳 浩（石川県知事）

### ◆副総裁

安居 知世（石川県議会議長）  
 徳田 博（石川県副知事）  
 村山 卓（石川県市長会会長・金沢市長）  
 前 哲雄（石川県町長会会長・川北町長）

### ◆会長

小中寿一郎（北國新聞社社長）

### ◆副会長

宮橋 勝栄（小松市長）  
 坂口 茂（輪島市長）  
 酒井 雅洋（石川県教育長）  
 野口 弘（金沢市教育長）  
 長基 健司（石川県商工会連合会会長）  
 米谷 治彦（石川県銀行協会会長）  
 山本 一人（石川県繊維協会会長）  
 鶴山 庄市（石川県建設業協会会長）  
 西川 一郎（石川県農業協同組合中央会代表理事会長）  
 中田 亨（石川県漁業協同組合代表理事組合長）  
 近藤 安爲（石川県森林組合連合会代表理事会長）  
 坂野 洋一（北國新聞社常務）

### ◆参与

田村 敏和（白山市長）  
 宮元 陸（加賀市長）  
 栗 貴章（野々子市長）  
 茶谷 義隆（七尾市長）  
 井出 敏朗（能美市長）  
 油野和一郎（かほく市長）  
 岸 博一（羽咋市長）  
 泉谷満寿裕（珠洲市長）  
 矢田 富郎（津幡町長）  
 生田 勇人（内灘町長）  
 稲岡健太郎（志賀町長）  
 宮下 為幸（中能登町長）  
 吉田 義法（能登町長）  
 高下 栄次（宝達志水町長）  
 吉村 光輝（穴水町長）  
 西村 聡（石川県商工労働部長）  
 西 正次（小松商工会議所会頭）  
 久岡 政治（輪島商工会議所会頭）  
 和田 隆志（金沢大学学長）  
 寺野 稔（北陸先端科学技術大学院大学学長）  
 山村 慎哉（金沢美術工芸大学学長）  
 宮川 恒（石川県立大学学長）  
 真田 弘美（石川県立看護大学学長）  
 山本 博（公立小松大学学長）  
 樫見由美子（稲置学園理事長）  
 大澤 敏（金沢工業大学学長）  
 高島 茂樹（金沢医科大学理事長）  
 東風 安生（北陸大学学長）  
 秋山 稔（金沢学院大学理事長・学長）  
 高他 毅（金沢学院短期大学学長）

加藤 真一（金城学園理事長）  
 矢澤 励太（北陸学院大学学長）  
 後藤 新（共同通信社金沢支局長）  
 松木 昭博（NHK金沢放送局長）  
 島田 喜広（北陸放送社長）  
 原田 康久（テレビ金沢社長）  
 築田 和夫（エフエム石川社長）

### ◆特別アドバイザー

青木 剛（留学生支援企業協力推進協会事務局長）

### ◆監事

松本 隆子（石川県出納室長）

## 【実行委員会】

### ◆実行委員長

戒田由香里（石川県文化観光スポーツ部長）

### ◆実行副委員長

村角 薫明（金沢市都市政策局長）  
 横山 昭博（小松市国際交流部部長）  
 中前 豊（輪島市総務部長）  
 道上 宗雅（北國新聞社取締役地域ビジネス局長）

### ◆実行委員

北口 義一（石川県文化観光スポーツ部次長兼国際観光課長）  
 小田 陽児（石川県文化観光スポーツ部国際交流課長）  
 小谷内裕之（石川県教育委員会生涯学習課長）  
 山若真由美（石川県健康運動推進本部事務局長）  
 高橋 健司（石川県国際交流協会専務理事）  
 山本 知行（金沢市国際交流課長）  
 坂下 義規（小松市観光交流課長）  
 坂本 修（輪島市総務課長）  
 富田 洋行（独立行政法人国際協力機構北陸センター所長）

眞辺 淳（金沢国際交流財団執行理事・事務局長）  
 下徳こづえ（小松市国際交流協会会長）  
 西田 哲次（金沢商工会議所常務理事）  
 坂井 修（小松商工会議所専務理事）  
 稲木 強（輪島商工会議所専務理事）  
 田賀 歩（金沢商工会議所経営相談グループ課長）  
 山本 秀明（金沢コンベンションビューロー専務理事）  
 米沢 有弘（金沢青年会議所理事長）  
 米田 早織（金沢青年会議所副理事長）  
 東本 大志（小松青年会議所理事長）  
 谷内 勇大（輪島青年会議所理事長）  
 長谷部徳子（金沢大学副学長（国際担当））  
 寺井 剛敏（金沢美術工芸大学理事）  
 津田 誠（石川工業高等専門学校副校長（地域・国際連携担当））  
 一恩 英二（石川県立大学学生部長）  
 米田 昌代（石川県立看護大学学生部長）  
 志村 恵（公立小松大学副学長）  
 大森 重宜（金沢星稜大学学生部長）  
 佐藤 進（金沢工業大学学生部長）

板倉栄一郎（北陸大学学生部長）  
 多田 孝志（金沢学院大学国際交流センター長）  
 内 慶瑞（金城大学教学支援部長）  
 宮浦 国江（北陸学院大学国際交流部会長）  
 能木場由紀子（石川県婦人団体協議会会長）  
 川上あつ子（石川インターヒューマンネットワーク会長）  
 河崎 智広（石川県青年団協議会会長）

### ◆事務局長

西本 東介（北國新聞社地域ビジネス局総務）

### ◆事務局次長

中農 卓也（北國新聞社地域ビジネス局事業部長）

※組織情報は2025年8月21日付のものです。

第38回 JAPAN TENTは、各省をはじめ数多くの団体、企業の温かいご支援のもとに開催されました。

## 【後援】

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・内閣府</li><li>・外務省</li><li>・文部科学省</li><li>・厚生労働省</li><li>・農林水産省</li><li>・経済産業省</li><li>・国土交通省</li><li>・総務省</li><li>・(公社)経済同友会</li><li>・(一社)日本経済団体連合会</li><li>・独立行政法人 国際協力機構</li><li>・独立行政法人 国際交流基金</li><li>・独立行政法人 日本学生支援機構</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・(公財)留学生支援企業協力推進協会</li><li>・(公財)国際文化フォーラム</li><li>・石川県</li><li>・金沢市</li><li>・白山市</li><li>・小松市</li><li>・加賀市</li><li>・野々市市</li><li>・七尾市</li><li>・能美市</li><li>・かほく市</li><li>・輪島市</li><li>・羽咋市</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・珠洲市</li><li>・津幡町</li><li>・内灘町</li><li>・志賀町</li><li>・中能登町</li><li>・能登町</li><li>・宝達志水町</li><li>・穴水町</li><li>・川北町</li><li>・石川県教育委員会</li><li>・金沢市教育委員会</li><li>・(公財)石川県国際交流協会</li><li>・石川県健民運動推進本部</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・北陸経済連合会</li><li>・石川県商工会議所連合会</li><li>・(一社)金沢経済同友会</li><li>・(一社)石川県経営者協会</li><li>・石川県商工会連合会</li><li>・金沢商工会議所</li><li>・小松商工会議所</li><li>・輪島商工会議所</li><li>・石川県医師会</li><li>・金沢市医師会</li></ul> |
|--|--|---|--|

## 【協力】

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・(公社)日本青年会議所北陸信越地区 石川ブロック協議会</li><li>・(公社)金沢青年会議所</li><li>・(公社)小松青年会議所</li><li>・(一社)輪島青年会議所</li><li>・金沢大学</li><li>・北陸先端科学技術大学院大学</li><li>・石川県立看護大学</li><li>・石川県立大学</li><li>・公立小松大学</li><li>・金沢美術工芸大学</li><li>・金沢医科大学</li><li>・金沢学院大学</li><li>・金沢工業大学</li><li>・金沢星稜大学</li><li>・金城大学</li><li>・北陸学院大学</li><li>・北陸大学</li><li>・金沢学院短期大学</li><li>・金沢星稜大学女子短期大学部</li><li>・金城大学短期大学部</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・石川工業高等専門学校</li><li>・国際高等専門学校</li><li>・早稲田大学</li><li>・国土館大学</li><li>・拓殖大学</li><li>・創価大学</li><li>・福井工業大学</li><li>・(公財)金沢国際交流財団</li><li>・小松市国際交流協会</li><li>・NPO法人加賀国際交流会たぶんかネット加賀</li><li>・白山市国際交流協会</li><li>・野々市市国際友好親善協会</li><li>・石川インターヒューマンネットワーク</li><li>・石川県婦人団体協議会</li><li>・石川県青年団協議会</li><li>・石川県海外青年交流協議会</li><li>・金沢市町会連合会</li><li>・金沢市公民館連合会</li><li>・金沢市校下婦人会連絡協議会</li><li>・石川県日英協会</li><li>・石川県日伯協会</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・石川県スウェーデン協会</li><li>・石川県日伊協会</li><li>・石川県日本中国友好協会</li><li>・石川ハンガリー友好協会</li><li>・金沢日仏協会</li><li>・石川インドネシア友好協会</li><li>・石川県マレーシア友好協会</li><li>・石川・ミャンマー友好協会</li><li>・東西文化交流協会</li><li>・ヒッポファミリークラブ</li><li>・(公財)金沢コンベンションビューロー</li><li>・共同通信社</li><li>・NHK金沢放送局</li></ul> |
|--|--|---|

【特別協力】・北國新聞社 ・北陸放送 ・テレビ金沢 ・金沢ケーブル ・エフエム石川 ・ラジオかなざわ ・ラジオこまつ ・ラジオななお

## 【協賛】

- thinkrun HD** **'TORAY'** **FUJITSU**
- ・石川県繊維協会
  - ・石川創価学会
  - ・金沢東急ホテル
  - ・コマツ
  - ・コマニー
  - ・東京商工リサーチ
  - ・北陸鉄道
  - ・北國銀行
- (順不同)